市政に関する一般質問

観光行政
インバウンド需要に対応する観光案内スタッフやボランティアの育成について

蒼政会
前嶋里奈

問 わが東金市には、現在十分な宿泊施設がなく、今後、外国人観光客の多様な受け入れ環境や施設整備が求められると思う。行政としても的確に民泊に対する支援をお願いしたい。そこで、インバウンド需要に対応する民泊サービスに加え、案内スタッフやボランティアの育成も必要と考えるが、当局の考えを伺う。

答 来訪者に東金市の魅力を知ってもらうためには、外国語版のパンフレットだけではなく、外国語が話せる観光案内所のスタッフや観光ボランティアの育成も必要だと考えている。

東金市には城西国際大学があることから、大学生や市民によるボランティアを育成できる環境づくりに向け、東金市観光協会と取り組んでいきたいと考えている。

産業振興
農業基盤の整備について

蒼政会
佐久間治行

問 私たちの食卓を支えるのは農業に携わっている方のおかげである。そこで、将来の食糧安定を見据えた時に、異常気象に対応した田んぼの基盤整備はかかせない事業だと考えるが、当局の考えを伺う。

答 東金市においては、県内でも基盤整備の整備率が低い状況である。農業者には、基盤整備の必要性については理解してもらっているが、地権者の同意が必要であること、また、食糧自給率の向上の観点から、米以外の作物を作っていることから、現在取り組んでいる農業の形態を変えていくという問題があると感じている。収益安定の面からも基盤整備が必要だと考えていることから、多面的機能の取り組みを行っている地区に対し、改めて必要性等について説明していければと考えている。

また、排水整備については、地域の基幹的な排水路等もあるため、行政側と地域の方々が連携し、その地域をいかに改善していくかということを考えながら取り組む必要があると考えている。

医療行政
東千葉メディカルセンターの中期計画変更案について

東嶺会
相京邦彦

問 収支見込のシミュレーションを行っているとのことだがその根拠は。

答 収益の確保については、地域連携による紹介患者の確保や効率的な病床利用による稼働率の向上、急性期を脱した患者の地域包括ケア病棟への円滑な病床移動、診療科の機能増強にあたり医師確保を適切に行うことで手術室の稼動を上げること等を計画の根拠としている。

損益収支については平成31年度に1億2900万円の単年度黒字を見込んでいる。積算の根拠は平成28年度の実績を踏まえ、収入面で、今後の患者数の伸びや手術件数の増による単価の状況を踏まえ、各年度の診療単価、病床稼働率、患者数を乗じ、分娩件数を加え積算している。支出面で、対医業収益比率を給与費、材料費、経費ごとに割り出し、各年度の目標数値を乗じ積算している。

中期計画変更案における医業収益に対する各項目の平成29年度の数値目標として、給与費60％、材料費28％、経費25％を見込んでいる。

一般行政
姉妹都市リュエイユ・マルメゾン市との交流について

公明党
中丸悦子

問 10月21日から25日にかけ滞在されたリュエイユ・マルメゾン市とどのような交流が行われ、また、今後はどのような取り組みを考えているのか。

答 歴史、習慣、国民性等の点で異なる外国都市との国際交流では、行政レベルだけではなく、本来の市民レベルでの交流、さらに経済交流などの真の交流を図ることが重要と考える。滞在中は姉妹都市交流に関係のある方々による交流会の開催、市内公共施設の視察見学、伝統文化・技術の紹介などにより、両市の友好親善を深める交流を行った。

また、今回の訪問を機に、市民一人ひとりが国際文化を理解し、国際社会で活躍できる力を育てるとともに、本市に住む人だけでなく、国内外から訪れる人にとって魅力的なまちづくりを進めることが肝要であり、姉妹都市締結後4半世紀が過ぎた中で、リュエイユ・マルメゾン市との新たな交流も考慮しながら、姉妹都市交流を発展させていけるよう検討したい。

医療行政
東千葉メディカルセンターの今後の経営改善の展望について

公明党
上野高志

問 今回の中期計画の見直しによる様々な取り組みを実行していると思うが、現時点で効果が現れている経営改善に対する取り組みや、希望のもてるような好事例はあるのか。

答 東千葉MCでは接遇研修等を通じ、患者や来院者に対する親切・丁寧な接遇を行っていきたいとのことである。また、産科の開設では、妊婦教室を開始するなど直接の医療行為以外の付加価値を高める活動を進めており、今後もなお一層に努力を重ね、患者サービスの充実を図っていくとのことである。

なお、病院に寄せられた声として、医師・看護師・検査技師の丁寧な対応や最新の医療機器による検査に対するものなど、接遇の向上と検査の充実についての内容が寄せられている。現時点でいろいろな改善点などを指摘されているが、多くの感謝の声も寄せられている状況であり、市民の皆様にとってより良い方向へとより一層経営改善が図られるように働きかけを行っていきたい。

福祉行政
特別養護老人ホーム増設を

日本共産党
櫻田あや子

問 平成28年7月1日現在の特別養護老人ホーム待機者175人中、独居49人、高齢者のみ世帯24人と大変な状況である。昨年度から入所申し込みが介護度3以上になったため、待機者数は見かけ上は減になる。山武地域には24時間対応の訪問看護介護サービス事業所はなく、安心して介護を受けられる施設の整備を市民から求められていると考えるが、今後の特別養護老人ホームの整備計画について伺う。

答 平成27年度から平成29年度までの第6期介護保険事業計画期間における特別養護老人ホームの整備は、60床で1施設を計画しており、本年7月に整備法人の公募を行い、審査した結果、1社会福祉法人を整備法人として選定した。整備年度は平成29年度・平成30年度となっており、福岡地区に整備される計画である。

その後の施設整備については来年度、次期介護保険計画を策定するため、介護給付費の伸びや必要性などを見ながら検討したい。

福祉行政
高齢者施策における理美容サービスの提供について

公明党
佐竹真知子

問 他市の広報で高齢者向け福祉サービスの項目に、訪問理美容サービス、寝具洗濯・消毒サービス等とあった。こうしたサービスがもたらす効果をどう考えるか。家族も高齢になり何かと負担が増えてくるが、在宅での日常生活を少しでも快適に過ごせるよう、これらサービス等の提供を期待するが考えを伺う。

答 年齢を重ね介護が必要な状況になると、理美容等への配慮は後回しになりがちであると聞いている。自宅で、プロの理美容師によるサービスが利用でき、きれいに整えられると表情も豊かになる。また、寝たきり状態などの寝具の衛生管理が困難な方への布団乾燥サービス等も、在宅での日常生活をより快適に過ごせることが期待できると考えている。

こうしたサービスの提供に当たり、要介護状態、年齢対象者や補助の方法は様々であり、高齢者や要介護者のニーズ等を把握しながら関連団体との協議や他のサービスとの関連性を深め、今後検討していきたい。

医療行政
「東千葉メディカルセンター」へ県の経営参加を

日本共産党
前田京子

問 「東千葉メディカルセンター」の第二期中期計画の変更案が示された。経営改善されても平成30年度に52億円の累積赤字で、一般的な改善策しか示されていない。そもそも、こうした事態になったのは、地域医療のニーズを見誤り、県立病院を廃止し、計画を推進した結果である。これまでの経過からも、県の経営参加を本気で求めるべきだが、市長の見解を伺う。

答 第二期中期計画の変更案は、県も関与し努力していく中で実現可能な計画となっている。したがって、地方独立行政法人が経営改善に向けて最大限の取り組みをしなければ難しさは増える一方だと思っている。

また、どう病院を守っていくのか県とも経営参加について話し合いながらやってきており、県の経営参加により経営的に大丈夫だという事はない。経営とは本来どうあるべきかを考えていかなければならない。

※紙面の都合上、一般質問の一部について要旨を掲載しています。詳細については、図書館・中央公民館及び市役所情報公開コーナーにて「会議録」の閲覧、または、東金市ホームページより会議録検索システムでご覧ください。（3月上旬発刊・掲載予定）
会議録検索のホームページアドレス　http://www.kaigiroku.net/kensaku/togane/togane.html